
自問自答

北川瑞稀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自問自答

【Nコード】

N5264M

【作者名】

北川瑞稀

【あらすじ】

「怖くて怖くてたまらない。この、世界が。」
少女は悩み、苦しみ、考えた。

時々ね、そこにあるドアを蹴破りたくなるの。

…いや別に破壊願望とかじゃなくてさ、なんていうか…逃げたくなる、みたいな。

私が居るところは暗闇で、私はその現実に住ることが怖くて。手探りで進むしかなくて、歩く速度はゆっくりで。

逃げたくなるのは、やっぱり、私が自分の心に負けているから。私は強くないし、取り柄もないから、余計そう思ってしまうのかもしれない。

その怖さを追いやるため、誤魔化すため、何かに走る。それが何、とは言わないけれど。

怖くて怖くてたまらない。

たとえば光が耐えない天国のような場所に出たって、それは変わらないと思う。ここに居ていいの？なんて余計なことを考えてしまうだろうから。

周りの人を見るとね、不安になるんだ。だけどその不安に負けてたら、何もならない。何も変わらない。

だから、追いつけるように。もしくは同じラインに立てるように。それか…追いつかれないように。私は、歩き続ける。

ひとりぼっち、なんてことはない。絶対ない。

この悩みの原因だって、周りの人なんだから。家族とか、友達と

か。こんなことを考えるってことは、その人のことを思っているってことでしょ？

人は、一人では生きれない。

人っていう漢字は、「ヒトとヒトが支えあってるから人」っていうのは間違ってる説があるとか。一人で生きている人もいなくはないとか。そんなことは…まあ、どうでもいいの。一人で生きていても、心のどこかでは、他人を求めているはずだから。
結局のところ、人は寂しがりやなの。

馬鹿だよな。

うん、馬鹿。こんな悩み、必要ないのにね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5264m/>

自問自答

2010年10月9日03時50分発行